

インターバンクの声（2015年7月8日）

ギリシャ問題の進展を期待感を持って見守っているが、解決する兆しが一向に見えて来ない。昨日までに提出される予定だったギリシャの財政再建策の正式提示も8日に持ち越されてしまった。ここまで予定が延び延びになってしまうと、ギリシャの支援獲得に対する切迫した気持ちが債権団に伝わらないのも頷けてしまう。ギリシャに同情できる部分もあるが、どちらが支援を受ける側か解らないような態度を見ていると、ドイツを始めとする債権団側の忍耐も限界に近づいていることも理解できる。欧州中央銀行（ECB）によるギリシャ銀行向けの緊急流動性支援（ELA）がストップしてしまえば、ギリシャは文字通りのデフォルトに陥ってしまう段階だ。ギリシャ問題の解決には時間が掛るとの見方が一般的のようだが、そろそろ突然の“ジ・エンド”の宣告にも注意しておくべきかも知れない。ギリシャ問題ばかりに目が向きがちだが、政府による緊急的な対策にも関わらず中国株の下落も止まらなくなっている。リスク回避による円買いもどうにか122円の水準で止まってはいるが、虎視眈々とドル円の値下がりを狙っているような圧力を感じてしまうのは自分だけなのだろうか。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。